資料4

第10回　高知市総合教育会議

学　力　向　上　対　策

～学力向上の取組と成果を上げている学校の特徴～

高知市教育委員会学校教育課

学力向上推進室による学力向上のための授業改善訪問概要

課題

管理職の大量退職

◎組織的・機能的な学校運営　◎ミドルリーダーの育成

若年教員への支援

◎効果的なＯＪＴの実施　◎指導技術の継承

新学習指導要領への対応

◎資質・能力の育成をベースにした教育課程の編成
◎カリキュラム・マネジメントの充実
◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

平成30年度設置

学力向上推進室

- 室長（学力向上指導監）
- 副室長（主任室員）
  - 主として学校経営に関する事項
    - 学力向上推進員(SV)　７名
  - 主として教員への指導助言に関する事項
    - 指導主事　６名

中学校の学力課題を解消するために，目標平均正答率比を次のように定める。

目標及び実態

◎　高知県学力定着状況調査（県平均比）
　小学4年生　105　（H30：国　98　算97）　小学5年生　105　（H30：国 99　算99）
　中学1年生　100　（H30：国　96　数91）　中学2年生　100　（H30：国 95　数89）
◎　全国学力・学習状況調査（全国平均比）
　小学6年生　105　（H30：国　97　算101）　中学3年生　100　（H30：国 94　数87）

平成30年度　学力向上推進室の学力向上推進員及び指導主事等の訪問人数（延べ数）

※学力向上推進員の下段は「学校経営計画」及び「初任者指導」に係る訪問の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
学力向上推進員	12	14	53	15	13	25	67	63	26	24	24	15	351	859
	90		230					66		122			508	
指導主事等	126	99	162	90	77	125	189	184	96	136	142	48	1474	

総計　2333 人

高知市学力向上推進室による訪問　平成30年度の総括→平成31年度の取組

平成30年度の総括

	対象校	主な指導内容	成果・効果	課題
小学校	「学力向上授業改善研究指定校」 9校	・主体的・対話的で深い学びの授業づくりや若年教員の育成に関わる重点指導を行う。研究指定校をバックアップするための指導訪問を行う。	◇これまで授業研究などは各校の独自の計画に任され，県外講師等招聘による授業公開（研究）が年間数回ある程度であったものが，年間を通じ10回以上，**指導主事が継続的に授業指導**に入り，授業改善を進めることができている。 ◇同じ指導主事に継続的に指導を受けることにより，学校全体が一つの方向・理論を持ち，授業研究をすることができ，また，**個々の教員や学校の授業力の向上の状況についての評価**もできるようになった。 ◇国語・数学の中学校教科会に毎月入ることにより，教材分析から授業実施，そして，事後研究と一連の授業づくりについてのPDCAサイクルを回すことができ，**教科会の討議内容の質の向上や教員個々の授業力の向上**につながっている。 ◇10月１日付けで県教委指導主事３名が推進室に加わったことにより，定期的に教科会への指導・助言を行うことができている。直接，教員に指導を行うことで授業改善につながっており，**要請も増えた**。	◆訪問指導対象校や対象教科以外からの指導要請が増加している状況にある。特に，小学校では，指定校の計画的な指導要請に加え，指定校以外からの要請，**市としての学力課題解決に向けた要支援訪問等が増加**しているが，現在の国語・算数の２名体制では**十分に対応できない状況**にある。また，**英語に関する指導要請が増加**してきているが，これは，現在，学校教育課指導主事１名と県教委小中学校課兼指導主事１名という体制では**十分に学校の要請に応えることができない**状況である。さらに，中学校のタテ持ちを行う教科や小学校からも**更に多くの訪問指導の要請**が上がってきている。 【新たな訪問指導要請】 ①小学校15校の学力課題解決に向けた要支援訪問（年間30回） ②英語：中学校教科会16校（月２回）及び小学校の外国語の授業要請 ③タテ持ち校からの数学や国語等の教科会への要請（定期的な訪問）
	「授業づくり講座」 4校	・算数の授業力向上を研究する小学校を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ※拠点校のうち１校は「主体的・対話的で深い学びの研究指定校」 ・教材分析・授業公開・事後研究を１サイクルとする。		
	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」 2校	・読みの力を育成する授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・読解力を鍛える読み物資料の有効な活用等について指導・助言を行う。		
中学校	「組織力向上のための実践研究事業」 （タテ持ち） 16校	・教科会の充実を図るなど教員同士が教え合い，切磋琢磨するシステムを構築し，また，それぞれの授業力を高めるための学校訪問指導を行う。		
	「授業づくり講座」 3校	・数学の授業力向上を研究する中学校の数学教科会を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・県内の数学授業づくり講座（集合研修）を県の指導主事とともに開催する。 ※市内の数学教員の参加を必須とする。		
	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」 1校	・読みの力を育成する授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・読解力を鍛える読み物資料の有効な活用等について指導・助言を行う。		

高知市学力向上推進室による訪問　平成30年度の総括→平成31年度の取組

学力向上推進室の体制

平成30年度

- 室長　1名
- 主任室員（指導主事）1名【中国1】
- 室員（指導主事）6名【小国2・小算2・中国1・中数1】
- 学力向上推進員　7名

→ 指導主事3名増　学力向上推進員1名増

平成31年度

- 室長　1名
- 主任室員（指導主事）2名【中国1・中数1】
- 室員（指導主事）8名【小国2・小算3・中国1・中数1・中英1】
- 学力向上推進員　8名

継続：県教委小中学校課指導主事3名が兼務【小国1・中数1・中英1】

県教育委員会との連携

学力向上推進室運営委員会

- 市教委：次長・課長・副参事
- 県教委：次長・課長・補佐・チーフ
- 学力向上推進室：室長・主任室員・指導主事・学力向上推進員

定期的に開催（平成30年度は10回開催）

平成31年度の取組

	対象校	主な指導内容
小学校	「学力向上授業改善研究指定校」11校	・組織的な授業研究に向けた学校体制づくりについての指導・助言を行う。 ・主体的・対話的で深い学びの授業づくりや若年教員の育成に関わる重点指導を行う。
小学校	「授業づくり講座」拠点校 3校（国語1校，算数2校）	・授業力向上を研究する小学校を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・教材分析・授業公開・事後研究を1サイクルとして，2サイクルの訪問指導を実施する。 ※高知県教育委員会学力向上総括専門官による指導助言
小学校	「主体的・対話的で深い学び」実践研究事業　1校	
小学校	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校指定」 2校	・言語能力，情報活用能力の育成に向けた授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・「読み」を鍛える資料等の有効な活用について指導・助言を行う。 ※1校は「授業づくり講座」国語推進校を兼ねる。
中学校	「「組織力向上のための実践研究事業」 タテ持ち型16校 （拠点校3校，推進校13校） 教科間連携型3校	・教科会の充実に向け，教員同士が学び合い，切磋琢磨するシステムを構築する。 また，授業力を高めるための計画的，定期的な訪問指導を行う。 ・組織マネジメント力の強化に向け，教科主任会，教科会等（教科間連携型についてはチーム会等）に対して，訪問指導を行う。
中学校	「授業づくり講座」拠点校 2校（数学2校）	・授業力向上を研究する中学校の教科会等を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・教材分析・授業公開・事後研究を1サイクルとする。
中学校	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」　1校	・言語能力，情報活用能力の育成に向けた授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・「読み」を鍛える資料等の有効な活用について指導・助言を行う。

※「授業づくり講座」では，国語・外国語・道徳が追加された。
※　中学校の「組織力向上のための実践研究事業」では，新たに「教科間連携」の枠に鏡中，行川学園，土佐山学舎が位置付けられた。

平成31年度　高知市学力向上推進室に係る訪問

高知市教育委員会学校教育課　平成31年4月1日作成

中学校

中学校組織力向上のための実践研究事業

★教科会の充実，授業力向上に向けての計画的，定期的な訪問指導。

【「タテ持ち」型】
- 拠点校：城北中・愛宕中・西部中
- 推進校：城西中・城東中・潮江中・一宮中・青柳中・朝倉中・三里中・南海中・介良中・大津中・旭中・横浜中・春野中
- 学力向上推進員・指導主事による訪問：月複数回×5教科×16校

★教科の枠を越えたチーム会の活性化。

【「教科間連携」型】
- 鏡中・行川学園・土佐山学舎

ゴールイメージの共有

学習活動の再吟味

到達状況を基にした検証・改善

授業改善プランに基づく学校訪問（国・社・数・理・英）

★学力調査等で明らかとなった課題解決，資質・能力の育成を目指した指導づくりへの訪問指導。
- 中・義務教育学校
- 指導主事等：年間2回×5教科×19校

高知の授業の未来を創る推進プロジェクトにおける「授業づくり講座」

★授業力向上を研究する学校を対象に教材研究や授業研究推進に向けての指導・助言。
- 算数・数学拠点校；第四小・春野東小・朝倉中・三里中
  推進校：横浜小・春野西小・西部中・旭中
- 国語拠点校：横内小
- 英語推進校：大津小・久重小・はりまや橋小
- 道徳拠点校：一宮中
- 学力向上総括専門官・講師・指導主事等による訪問

校長会との連携

学校との連携
学校の課題解決に向けた要請訪問の実施

教育研究所との連携
年次研修等における連携

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業

★言語能力，情報活用能力の育成に向けた授業づくりについての研究や授業研究を進めるための指導・助言。
- 横内小・はりまや橋小・城東中
- 学力向上推進員・指導主事による訪問

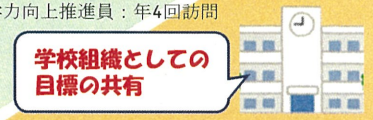
高知の授業の未来を創る推進プロジェクトにおける「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業

★９年間の学びをつなげる授業づくり，授業力　の徹底向上に向けた指導・助言。
- 潮江東小
- 学力向上総括専門官・指導主事等による訪問

「見方・考え方」を踏まえた授業提案

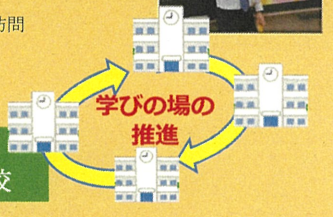
学校経営計画に基づく訪問

★組織的な学校運営に対しての指導・助言。
全小・中・義務教育学校
学力向上推進員：年4回訪問



初任者指導訪問

★初任者の育成及び学校におけるＯＪＴの支援等のための訪問指導。
（具体的な改善点，学級づくりへの助言　等）
- 初任者配置校
- 学力向上推進員：年5回訪問



学力向上のための授業改善研究指定校

★組織的な授業研究に向けた学校体制づくりについての指導・助言。主体的・対話的で深い学びの授業づくりや若年教員の育成に関わる重点指導に係る訪問指導。
- 第六小・旭東小・昭和小・秦小・三里小・布師田小
  久重小・鴨田小・介良小・大津小・泉野小
- 学力向上推進員・指導主事による訪問

校内研究の充実に向けて

【校内研究の事前の訪問では】
- 教材分析や指導案づくり
- 事前授業や模擬授業　等

【校内研究当日の訪問では】
- 提案授業に対しての協議・講話

学校として目指す授業の提案

小学校

各シート等の活用
★国語，算数・数学重点問題
★パワーアップシート，パワーアップシートα
★単元テスト　　★県作成各シート　等

各資料等の活用
★「学びの羅針盤」　　★「算数・数学指導実践集」
★「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業学習指導案集」
★「授業アイディア事例集」　★「学級経営ハンドブック」

高知市学力向上推進室による訪問　平成30年度の総括→平成31年度の取組

学力向上推進室の内容別訪問回数及び人数

※「学校経営計画」及び「初任者指導」に係る訪問を除く

平成30年度

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上実践研究 授業改善プロジェクト	中学校16校	31	38	51	12	3	20	35	63	54	51	60	9	427
授業改善研究指定	小学校9校	18	13	73	31	21	49	33	18	9	36	37	13	351
指定事業 申請・要請訪問	小学校39校中学校17校 義務教育学校2校	25	30	52	46	56	57	171	116	45	50	62	30	740
合計	訪問回数	74	81	176	89	80	126	239	197	108	137	159	52	1518
	訪問人数（延べ数）	138	113	215	105	90	150	256	247	122	160	166	63	1825

平成31年度

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上実践研究 授業改善プロジェクト	中学校17校 義務教育学校2校	27	55	125										207
授業改善研究指定	小学校11校	23	38	73										134
指定事業	小学校8校中学校4校	42	44	74										160
申請・要請訪問等	小学校39校中学校17校 義務教育学校2校	13	31	47										91
合計	訪問回数	105	168	319										592
	訪問人数（延べ数）	164	223	329										716

4～6月 合計

	H30		H31	
訪問回数	331回	→	592回	（179%）
訪問人数	466人	→	716人	（154%）

学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

教育効果の高い学校での取組

出典：平成26年度文部科学省委託研究
「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（効果的な指導方法に資する調査研究）」
国立大学法人お茶の水女子大学

児童生徒の家庭の経済的背景から見込まれる学力を大きく上回っている学校においては，次のような観点において様々な取組が行われている。

①表現力・課題探究力の向上
- 朝読書などの一斉読書の時間を定期的に設ける
- 学級やグループで話し合う活動を授業などで行う

②授業スタイル
- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れる
- 学習方法（適切にノートをとる等）に関する指導を行う

③家庭学習の指導
- 家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る。
- 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える

④学力調査の活用
- 学力等に関する調査の結果を学校全体で教育活動を改善するために活用する
- 学力等に関する調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組を保護者等に働きかける

⑤少人数・TT・補充学習
- 数学の指導として補充的な学習の指導を行う
- 授業においてTT（ティームティーチング）による指導を多く行う

⑥学校外リソースの活用
- ボランティア等による授業サポート（補助）を行う
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行う

⑦実践的研修・研修成果の活用
- 学力等に関する調査の結果を保護者や地域の人たちに公表する
- 教職員が研修や研究会に参加し，その成果を教育活動に積極的に反映させている

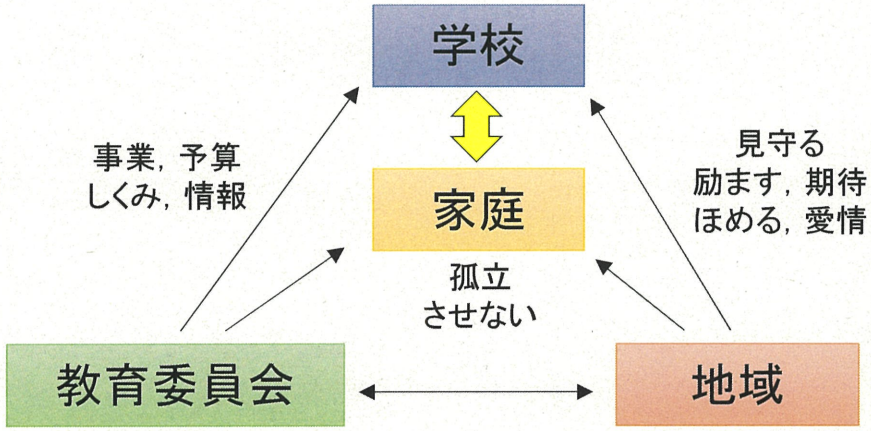
学力向上の取組において成果が見られる学校の特徴的な取組

出典：平成26年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（効果的な指導方法に資する調査研究）」（お茶の水女子大学）

○学校と教育委員会との関係

・学力調査の結果分析資料の提供と活用
・県や市の一斉実施の学力調査を個への指導に生かす
・県及び市の研究指定校による取組
・教員を集めての伝達する研修よりも，学校に出向いて授業に直結した研修へ重点をおく
・加配教員や支援員の配置（学力，特別支援，生活指導等）

図表９－１　高い成果を上げている学校と教育委員会と地域との関係

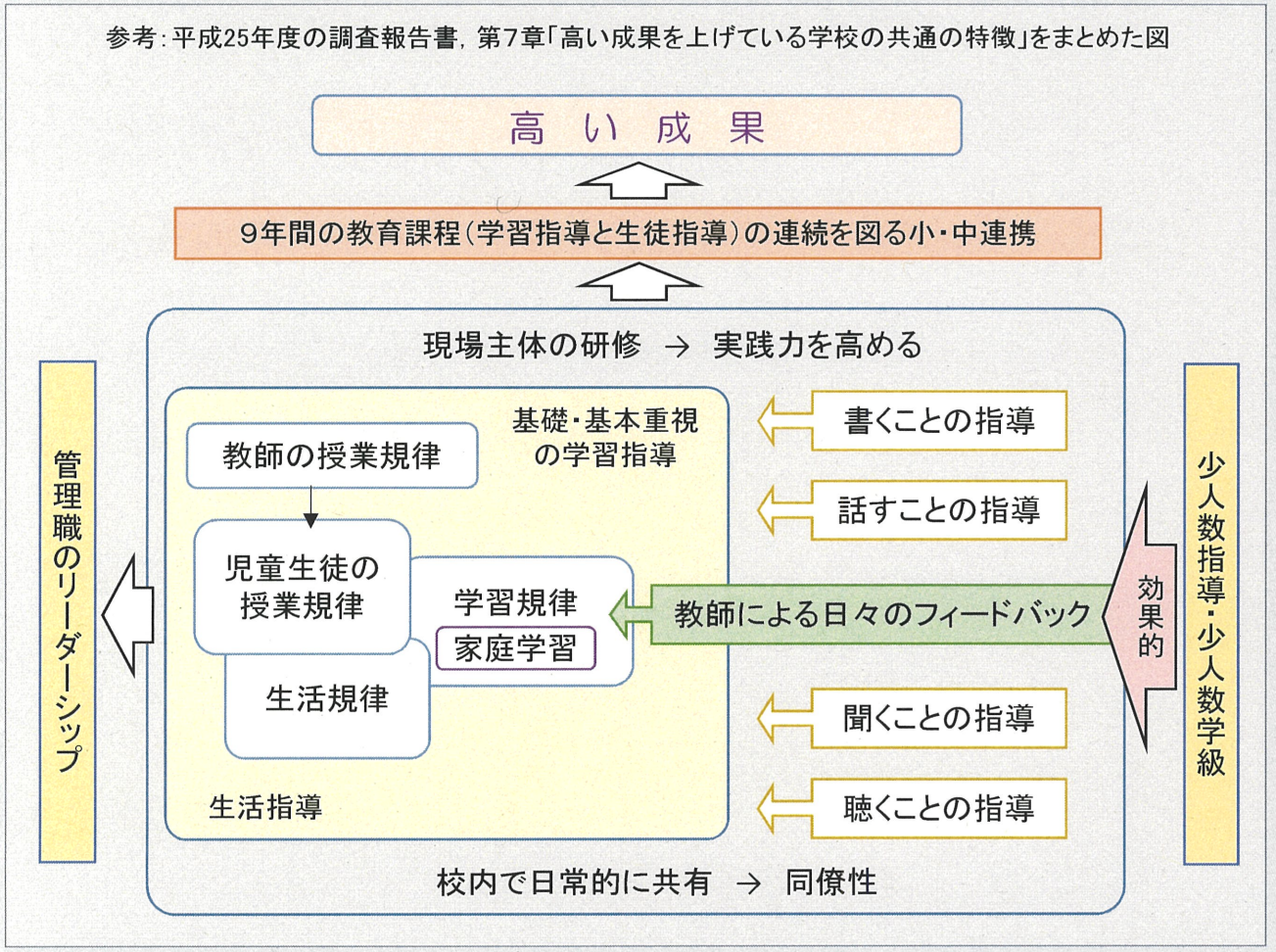


○学校と地域との関係

・学校運営連絡協議会などの組織的な地域連携
・地域が協力的で学校行事やボランティアへの参加
・保護者でない地域住民の参加，学校の様子を地域に伝え，ともに教育に参加してもらう
・地域との互恵的な関係
・学校が地域へ貢献，子供によって地域が活性化するという視点
・子供の心の安定や自己肯定感の高まりを生む

学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

出典：平成26年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（効果的な指導方法に資する調査研究）」（お茶の水女子大学）



- 家庭学習の指導
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築，実践的な教員研修の重視
- 小中連携教育の推進，異学年交流の重視
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 都道府県レベル，市レベルの学力・学習調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着の重視と少人数学級の効果

○教員の力量形成	「指導主事による定期的な訪問指導（授業改善）」 「教員同士の学び合いによる互いの成長により，学校全体の授業力が向上」 「他校の授業研究会に参加するような仕組づくり」
○小中連携	「学習・生活規律面での共有や共同研究」 「互いの学校に出向き，公開授業を合同で参観して協議するという授業研究会を継続的に実施」

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

県平均正答率を100とした場合の各調査におけるA中学校の平均正答率

中学3年	国語A	国語B	数学A	数学B
平成30年度 全国学力・学習状況調査	98	99	95	93

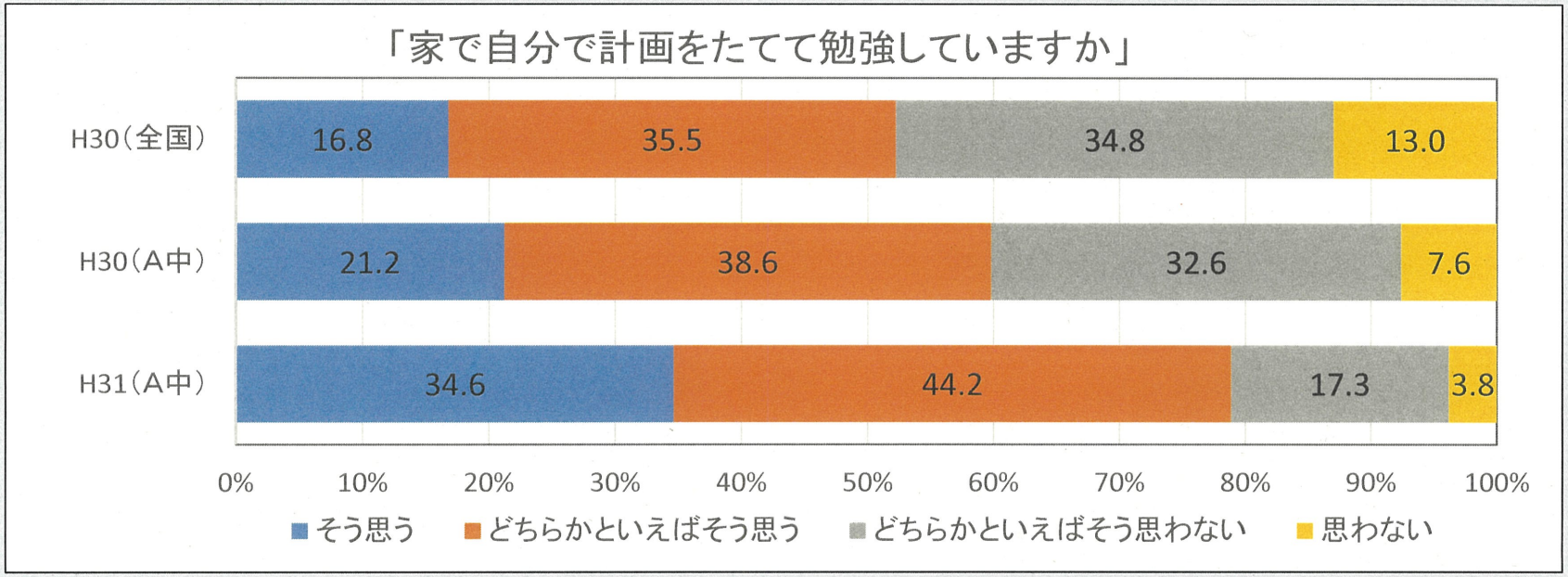
中学2年	国語	数学	英語
平成30年度 高知県学力定着情況調査	100	103	100

中学3年	国語	数学	英語
平成31年度 全国学力・学習状況調査	111	123	106

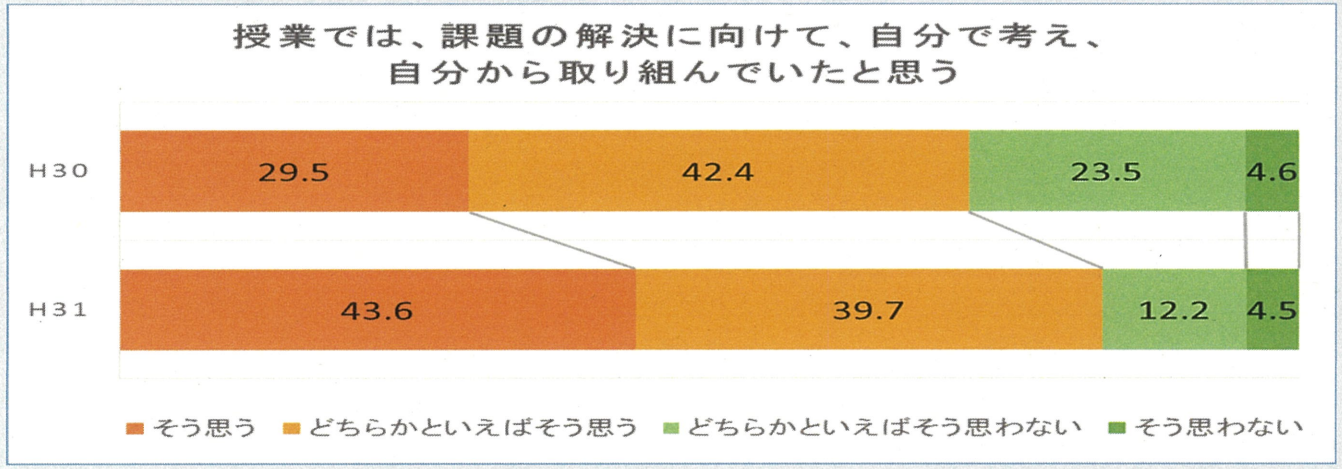
※平成31年度全国学力・学習情況調査は自校採点結果による

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組



（全国学力・学習状況調査　生徒質問紙調査より）



（学校独自の授業アンケートより）

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

②授業スタイル
③家庭学習の指導
④学力調査の活用
⑤少人数・TT・補充学習
⑥学校外リソースの活用
⑦実践的研修・研修成果の活用

中学校組織力向上のための実践研究事業
平成31年度「タテ持ち」型　拠点校

教科担当の「タテ持ち」を実施

若手教員を育成するためのシステムとして活用

若手教員 ⇔ 中堅・ベテラン教員

・相互の授業参観　　・TTによる指導

ベテランが若手の授業へ

- 週1回の教科会で互いに見合った授業をもとに授業改善を進める。
- 適切な家庭学習課題の設定と学習方法の指導を徹底する。
- 学力調査問題の結果を分析し，授業改善を通した学力向上の取組に活用する。
- 全ての教科会に学力向上推進室の指導主事が参加し，参観した授業に関する授業メモを指導主事が作成する。

→　教員の授業の振り返りに活用

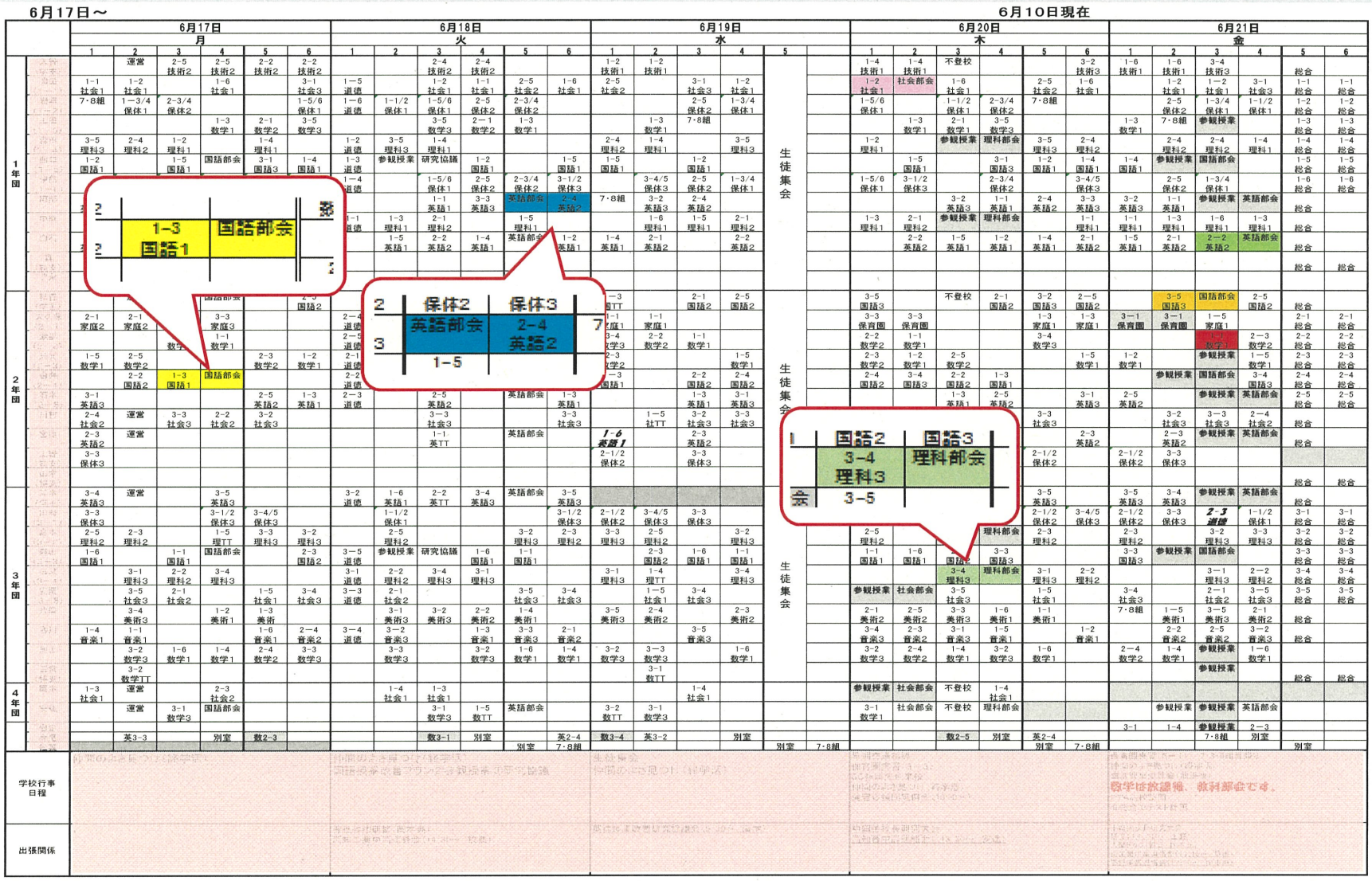
若手がベテランの授業へ

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

Ａ中学校における取組

◎　教科会（週時間割）

国語・社会・数学・理科・英語の5つの教科会と授業参観がセットとなった週時間割表が，毎週学校から送付され，指導主事や学力向上推進員が参加します。



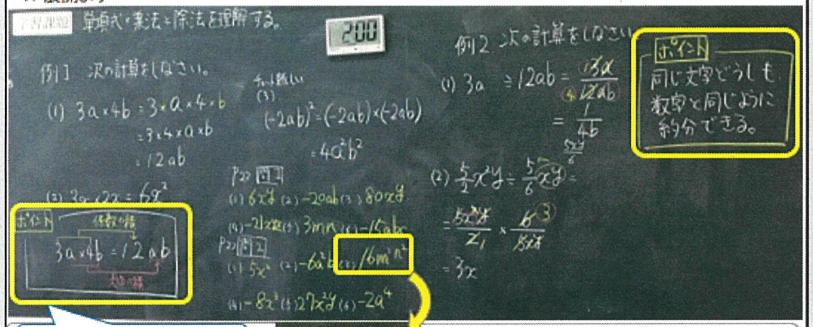
平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

◎　指導主事による「授業メモ」の作成
授業参観の感想や，教科会での協議事項等を指導主事が訪問後に作成し，学校に提供。
教員の授業後の振返りや改善に活用しています。

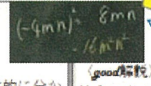
平成31年4月26日（金）4時間目　先生の授業について　高知市学力向上推進室　伊吹メモ

1．展開より



授業のポイントとなることが板書に示されていること　good

〈good解説〉
生徒にとって授業でのポイントが視覚的に分かるように示すことは大事なことです。また，示されていることによって，受容中で今年度重視する授業を振り返る際の支援にもなります。



間違いやすい間違いを具体的に示して全体で確認し，間違えたことを肯定的に捉え評価したこと　good

〈good解説〉
社会に出てからも間違えることはあり，間違いを生かすことが大事であることを授業で伝えることは重要なことです。今日の授業のように，間違ったことが生徒の理解につながったと実感させるような工夫を心がけてみましょう。

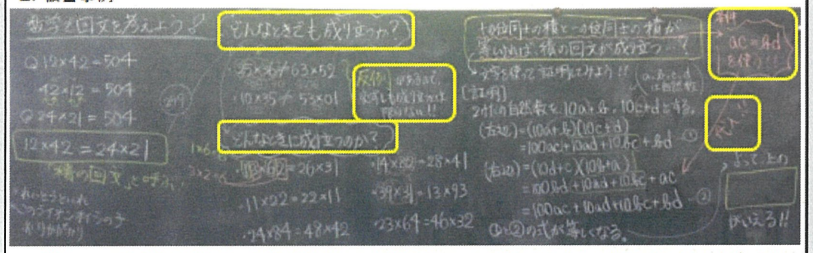
〈気になった点①〉
どのような既習事項を使ったのか板書に残っていないこと。

〈改善点①〉
導入で既習事項を振り返るのではなく，必要に応じて既習を振り返って問題を解決することで，既習の知識を活用する習慣を身に付けさせていくことが重要です。例えば$(-2ab)^2$の計算では，正の数と負の数で学習した$(-3)^2$の計算を活用することを生徒から引き出し，そのことを板書に残していくことが考えられます。

〈気になった点②〉
生徒の話し合い活動があまり活発でなかったこと。

〈改善点②〉
話し合いを活発にするためには，何を話し合うのか（話し合う目的）を明確にし，それを生徒に伝えることが重要です。
クラス替え直後で，人間関係が十分でないことも考えられますが，学級づくりは教科指導を通して行う一面もあるため，学級担任と連携し，話し合い活動の充実に取り組んでいきましょう。

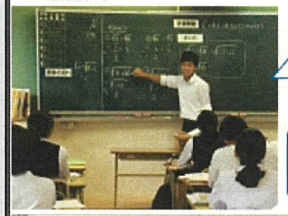
2．板書事例



〈解説〉この板書はH29研究所の数学研修で紹介した板書例です。これがベストというわけではないですが，板書の端々に疑問が書かれていたり，問題解決のポイントとなることが書かれていたりしています。このような疑問やポイントを生徒から引き出し，板書に残すことで生徒の主体的に学習に取り組む態度（現行の関心・意欲・態度に替わる新学習指導要領における評価規準）を育成していきましょう。

令和元年6月12日（水）4時間目　先生の授業について　高知市学力向上推進室　伊吹メモ

1．展開より

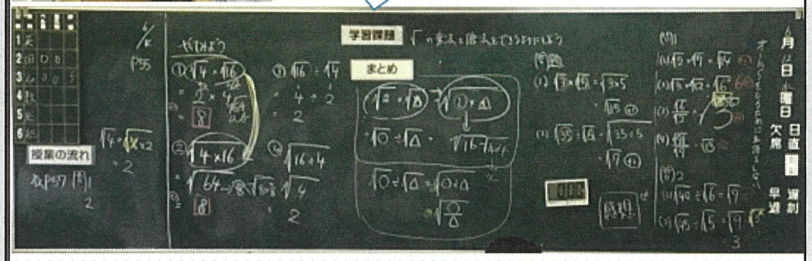


考えた理由を生徒自身に発表させたこと。また，他の生徒にも同様に発表させたこと　good

〈good解説〉
生徒に発表（表現）させる機会を設定することで，相手にわかりやすく伝えるために自分の考えを整理することにつながります。

学習課題とまとめを板書に残していること　good

〈気になった点①〉
計算方法について，特殊な場合のみを取り上げ，新学習指導要領で求められているような「計算の方法を考える」ための数学的活動が弱かったこと。



2．改善のために（生徒に疑問を持たせ見通しを持って解決に向かう例）

～正の数の平方根について～
(1) 正の数の平方根について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア)　数の平方根の必要性と意味を理解すること。
(イ)　数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
(ウ)　具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。
イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ア)　既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。
(イ)　数の平方根を具体的な場面で活用すること。
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説数学編p.133より

正の数の平方根の乗法は$\sqrt{a}\times\sqrt{b}=\sqrt{a\times b}$，除法は$\frac{\sqrt{a}}{\sqrt{b}}=\sqrt{\frac{a}{b}}$ $(a>0,\ b>0)$を基にして計算できる。
$\sqrt{a}\times\sqrt{b}=\sqrt{a\times b}$となることについては，aとbに具体的な数を当てはめて考察することが考えられる。例えば$\sqrt{2}\times\sqrt{3}$の結果が$\sqrt{2\times3}$になると予想し，電卓等を活用して，
$\sqrt{2}\times\sqrt{3}=1.414\ldots\times1.732\ldots$
$=2.449\ldots$
と計算し，その結果が$\sqrt{6}=2.449\ldots$と近い値になることから$\sqrt{2}\times\sqrt{3}=\sqrt{2\times3}$となりそうなことを予想できるようにすることが考えられる。
このような活動の上で，平方根の乗法の計算の方法については，$\sqrt{2}\times\sqrt{3}$を2乗して，その結果の平方根を調べることで，$\sqrt{2}\times\sqrt{3}$が$\sqrt{2\times3}$と等しくなることを確かめる。除法についても同様の視点から計算の方法を考察し表現することができるようにする。
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説数学編p.135より

〈改善点〉計算の方法を考えさせるために，平方根の計算はこれまでの計算と同様にできるのかという単元を通した問いをもった上で，疑問を持たせ計算結果を予想し確かめることを数学的活動に乗せていくようにする。

【対話例】

$\sqrt{2}$や$\sqrt{3}$がどんな数かはこれまで学習してきたけど，加減乗除の計算をするとどうなるのかな？　①

これまでと同じように$\sqrt{2}\times\sqrt{3}=\sqrt{6}$
$\sqrt{2}+\sqrt{3}=\sqrt{5}$　となると思います。②

じゃあ，本当にそうなるか確かめてみましょう。まずは乗法から。どうすれば確かめられるかな？　③

数字に直して計算したらいいと思います。④

近い値（右上参照）になったけど，本当にできるのかはわからないな…　⑤

じゃあ，もう一度式を確認しましょう。右辺の$\sqrt{6}$はどういう意味？　⑥

2乗して6になる正の数です。⑦

この数と同じになるためには左辺がどんな数になればいいのかな？　⑧

左辺が正の数で，2乗したら6になればいいと思います。⑨

この見通しをもとに確かめてみましょう。⑩

数学科の授業メモ

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

◎　指導主事による「授業メモ」の作成

訪問記録　（高知市立 A 中学校）

日時：平成31年6月3日（月）
学年・組：3年4組
授業者：[redacted]教諭

1　単元名	教材名：月の起源を探る
2　本時の目標	文章の構成について図や写真を見せながら考える

3　本時の授業においてよかった点

・国語辞典を全員が手にできる環境を整えている。
※意味を調べるとき，一人一冊の国語辞典を手にできる環境をつくることは大切です。継続してください。

・この教材でどのようなことについて学習するのか，国語科としての付けたい力について導入時に生徒へしっかり伝えている。
※引き続き継続してください。

・生徒に対して丁寧な言葉遣いで生徒と接している。
※先生の丁寧な対応が，学級の穏やかな雰囲気をつくっていました。

4　今後の授業に活かす点

・教材は教師が範読する。
※CDは正確な字の読み方は分かりますが，生徒の実態に応じた読みにはなりません。「個別に指導する必要がある生徒が複数いて，学習に向かう準備をさせるために，CDを聞いている間に指導を行う」など，教師に明確な目的がないのであれば，教師自身が範読することをおすすめします。注目させたい事柄や内容について，生徒の状況に合わせて声の強弱や間をとって読むことができ，音読のモデルを示すことにもなります。

・机にうつぶせた生徒には，できるだけ早く対応する。
※CDを聞いている間等，学習活動中にうつぶせた生徒には，できるだけ早く対応し，支援しましょう。トラブルで高ぶった気持ちをクールダウンさせるために，そっとしていた方がよい場合等もありますが，基本は学習に参加できるようにすることです。生徒との関係はよいので，全体の学習規律を崩さないためにも適宜指導しましょう。

・学習活動にテンポをもたせる。
※3年生なので，丁寧すぎる説明は不要です。指示を端的にして，本時に予定していた「文章の構成について考える」学習ができるようにすすめましょう。

5　その他

・生徒に対して尊敬語（～していらっしゃった）や謙譲語（～していただいて）を多用しています。丁寧語でよいです。

国語科

英語科

訪問記録　（高知市立 A 中学校）

日時：平成31年4月23日（火）
学年・組：1年2組
授業者：[redacted]先生

1　単元名	Let's Start 2, PROGRAM 1 アルファベット
2　本時の目標	町の中の英語を知ろう！Alphabetを正しく発音し，書けるようになろう

3　本時の授業においてよかった点

・ Today's Goalを示し，今日の学習課題を生徒と共有できていた。
・ 先生がきれいで聞き取りやすい発音で英語を話し，できる限り英語で授業を進めようとしていた。
・ 音と文字の一致に欠かせない，フォニックスの音声指導ができていた。
・ 生徒が英語での指示を理解しにくかった時に，ジェスチャーや例を示して言い換えたりすることで，理解を促すことができていた。
・ ワークシートを，"Here you go/are."と言いながら配付することで，実際の使用場面を示し，英語の表現の定着を図っていた。
・ 教科書を使っての活動の際に，開本できているかどうかペアで確認させたこと，また活動の内容について英語での指示が理解できていたか確認することで，活動のスタートをそろえることができていた。

4　今後の授業に活かす点

・ 学習課題について，達成できたか，何を学んだかを確認する時間を取り，次時の学びにつながるように，まとめや振り返りの時間をとる。
・ フォニックスのプリントを挿していて準備できず，発声ができなかった生徒がいたので，教科書の開本の時のように，ペアで確認したり，先生がフロアに下りて確認したりすることで，スタートをそろえる。(Are you ready?の声がけはよかったので)
・ 黒板でアルファベットの書き方を示しながら指導するときは，4線は定規で引くか4線の引かれた紙を用意することで，正確に書くことにつながる。

5　その他

先生が，とてもきれいな発音で英語を話していたので，[redacted]先生みたいに英語を話せるようになりたいな」と生徒が思えるようなよいモデルになると思います。また，先生が英語で授業を進めるために，今日の授業で実践されていた「英語で言い換えたり，例を示したりすること」がまさにMERRIER Approachの手法です。授業改善のための実践研修会で，更にそのメソッドを学ぶことができると思います。

アルファベットの文字指導は，A-Zの順番でなくても，A,H,Iなどの左右対称の文字や，Cc,Jj,Kkなどの大文字と小文字がほぼ同じものから指導するなど，生徒にとって効果的な順番で指導することも可能です。

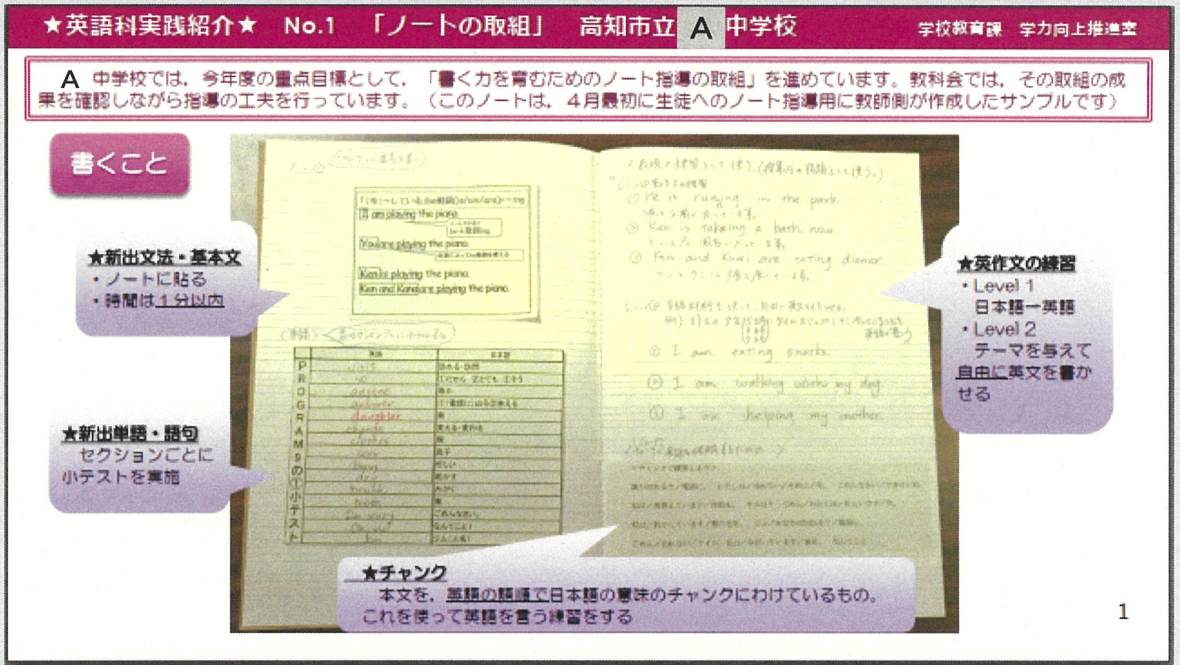
また，We Canで使用されているHandwritingWeCan Mediumというフォントがあり，ダウンロード可能ですので，文字指導の際には活用できると思います。

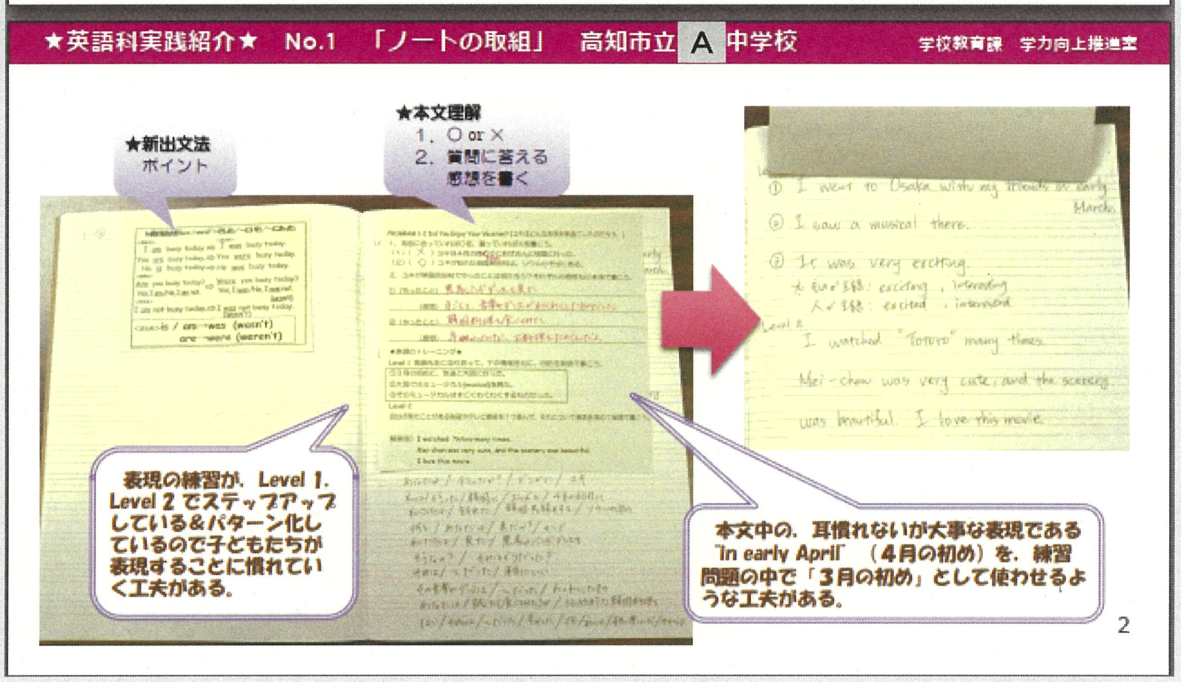
1時間（1単元，1年間，3年間）の授業のゴールに，子どもたちにどんな力が付いていてほしいか，先生自身が明確なイメージを持ち，今後もゴールにつながる活動を工夫しながら授業づくりを進めていきましょう。ありがとうございました。

平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

◎　英語科の取組の紹介
A中学校の英語科が年度当初に行った生徒へのノート指導の資料を，学力向上推進室の指導主事が他校の教科会において紹介。





平成30～31年度　学力向上の取組において成果が見られる学校の取組事例

A中学校における取組

⑥学校外リソースの活用

⑦実践的研修・研修成果の活用

地域との連携等

◎　避難訓練
地域参加型避難訓練の実施し，校区の幼稚園児・保育園児、地域住民等の約150名が参加。学校屋上へ避難する。

◎　学校運営協議会
学校運営協議会で「教職員の働き方改革」について議論
学校への一層の協力と，教員の実情への理解を深める。

○ A中学校の成果

- 学力面と生徒指導面を両輪としてた取組を進めることで，学校の実践を全教員で行っていこうとする意識の醸成が図られた
- 学力面では、高知県平均、全国平均を教職員が意識することで授業改善の必要性を認識できた

教育委員会として

こうした成果のあった学校の取組を，広く普及することで，本市全体の学力向上につなげていく。
- 研修会，公開授業研究会への参加を促す（情報提供）
- 指導主事等による他校への訪問（研修会，教科会等）
- 研究資料や成果物の他校への提供